

2022年度 高校3年前期第2中間試験講評

【国語】

【現代文】（2単位）（A～D組）（担当…男山）

〔問題一〕は森鷗外の小説「舞姫」から出題しました。1890（明治23）年に発表された作品であり、読解には日本や世界の当時の情勢に関する知識を参考にすることが不可欠です。また、本文の読解を通して、やはり当時の人々の思想や感性、あるいは社会の様相を正しく読み取ることにも必要です。文学テキストを読むという行為はテキストの内と外との往還によって成立します。

授業に真剣な姿勢で臨み、テストに向けてもよく努力した結果として好成績をあげた人が多く、感心しています。娯楽としての読書とは異なり、国語科授業における小説の読解は、解釈と批評とを実践することが最重要の目的です。大学入試に向けて理論的に読むトレーニングを開始してください。

〔問題二〕は資料「観光立国推進基本計画」および「テクノ・オリエンタリズム」と文章「観光とセルフ・オリエンタリズム」を用いた問題でした。共通テストでは資料と文章とを組み合わせた問題が出題されます。与えられたテキスト間の異同に注意をしながら理解に努めることを心がけてください。出題される設問の内容とその答えに事前に接近できてしまうこともあります。そういう読解を目指してください。現代思想用語の一つである「オリエンタリズム」をこの機会によく理解してください。他にも「ソフトパワー」や「グローバル」といった語がありました。これらについても深く理解することに努めてください。記述問題に正しく答えた人が多く、引き続き記述力の養成を意識しながら勉強を進めてもらいたいと思います。

〔問題三〕は瀬尾まいこの小説「優しい音楽」から出題しました。語り手の「僕」が語っていることからわかることを明確にすることはもちろん重要ですが、それがこの小説テキストから読みとれることのすべてではありません。たとえば、会話として示されるカギ括弧内の言葉から他の登場人物の性格や心情を読み取ることもできます。通読して情報を正しくとらえ、記憶を保持しながら設問で要求されていることに答えることができなければなりません。この過程を意識して入試のための読解力を養成してください。

【古典】（2単位）（A～D組）（担当…大島）

古文単語のうち、重要なものは本当に少ないので、問題演習の中で何度も目にするはずですが、ついどこかで忘れてしまうようですが、それでは能力を疑われてしまいます。もう少し早めに覚え、解釈する時使えるようにしましょう。

今後はペースを上げて演習に取り組みます。少しでも多くの文章、問題に触れておくことが最も重要だからです。予習をしていないとか、寝入ってしまうとかで授業を止めることがないようにしましょう。真剣に受験勉強に取り組んでいる仲間がかわいそうです。

〔演習国語〕文系（C、D組）

〔現代文〕（2単位）（担当…男山）

〔問題一〕は鈴木透『スポーツ国家アメリカ』から出題しました。スポーツを文化としてとらえる評論は数多くあります。この文章は文化としてのスポーツを論じて、スポーツ史、社会史、経済学など、他領域の知へと広がるものとなっています。読者あるいは解答者は、既存の知識の量と質とが試されます。知識や情報の更新をふだんから積極的に行うよう心がけてください。大学入試で出題される評論は新しいものが多く出題されます。

本文と設問との関係を正しくとらえ、記述問題では最適の語を選ぶ言語感覚と正しい文法とが得点の条件になるということ、選択問題では正答には本文の言葉とは異なる表現を用いている場合が少なくないということとをそれぞれ銘記して今後も努力を続けてください。

〔問題二〕は小川洋子の小説『ひよこトラック』から出題しました。リード文には重要な情報が書き込まれています。確実に読み、その記憶を保持しながら本文を通読しなければなりません。この文章ではリード文に「男」および少女のことについての説明があります。文章を誤読することなく読み進めるために2人のイメージをこのリード文をもとにしておおむね作り上げておくことが望ましい。文章の終わりまで、このイメージに矛盾がなければ、正しく読むことに成功したと思ってよいと思います。あとは設問に沿った答えを書いたり、選んだりすればよいのです。他の問題を解く際にもぜひこれらのことを意識し、応用してください。

〔古典〕（1単位）（担当…大島）

論理的に整った文にまとめるというのは、なかなか難しいことです。でも、論理的でないと、読んでも意味が分かりません。意味の通る文になっているかどうか、しっかりと確かめながらまとめていきましょう。おそらく、かなりの者が字数を埋めるだけで満足してしまっているように思われます。

また、傍線部がどういう意味になっているのか、文脈を念頭に置いて読み取るのも実に難しいことです。これも、ある程度のレベルの文章にたくさん触れていくことが大事になります。くれぐれも、授業の流れを止めることがないように、少し緊張感を持って予習に取り組んでください。

社会人に向けてのトレーニングはもう始まっています！

【数学】

〔数学Ⅲ〕（8単位）

内進生理系（A、B組）（担当…菱井）

平均点は52点と前回より10点近く高くなりました。教科書の内容が終わるということもあって、教科書をよく味わってくれていたと思います。二次曲線の基本的な問題はよく得点できていました。特に媒介変数表示の曲線の長さの問題は難しい問題にもかかわらず、多くの人がしっかり記述できていたと思います。

試験後半の入試問題演習「数列の極限」の内容はしっかり復習してください。まったく手をつけていない人も目立ちました。教科書の基本的事項を思い出して、一つ一つ丁寧に確認してください。

教科書の内容はすべて終わりました。教科書はどの問題集よりも重要です。定理の証明や、導入の意図などをしっかり理解していないと解けない入試問題が増えています。教科書で基本的事項を確認しながら入試問題演習にチャレンジしていきましょう。

高入生理系（A、B組）（担当…十文字）

平均は39、最高は99という結果でした。面積、体積の計算など内容も、計算もなかなかハードな範囲なので、多くの生徒には大変だったと思います。計算については、結果が汚い数値であっても、それまでに自分がこなした量が自信につながるわけですから、やはり繰り返し問題を解きなおすことが大事だと思います。今後は、数Ⅲの残り（二次曲線、複素平面）を終わらせ、演習が中心になります。多くの生徒（北大、東北大ぐらいまでのレベル）であれば、これまでの内容を完璧にできることです。まずは、プリントの見直しや各自が持っている問題集（1冊でいい）を徹底してこなしてほしいと思います。

〔演習数学〕（5単位）

国公立文系（C組）（担当…菱井）

今回の範囲は「2次方程式・不等式」「2次関数のグラフ」「三角比」「データ分析」「場合の数」「確率」でした。平均点は38点と過去ワーストの結果でしたが、赤点者は前回の半分に減りました。基本的事項の確認はそれなりに得点できていたと思います。応用問題は白紙の答案が目立ちました。授業でやった内容とほぼ同じ問題を出題しています。しっかり復習しましょう。共通テストを意識して、日々勉強してください。

【英語】

〔コミュニケーション英語〕（4単位）

〔英語表現〕（2単位）

Advanced（A～D組）（担当…油川）

今回の試験範囲となった英文は前回よりも難易度は上がりましたが全体に得点率は上がったことは評価できます。英文解釈の問題に関しては構造に即して訳すことができている答案が多くなったと思います。ただし内容説明の問題では出題者の意図がつかめていないと思われる解答が散見されました。該当箇所を的確に特定して過不足なく日本語にまとめる練習が求められます。英作文では並べ替えや選択問題はできて英作文が正確にできていない答案が目につきました。少なくとも授業で練習しているレベルの英作文問題は十二分に復習しておきましょう。

Standard (A～D組) (担当…濱塚 [表現], 祖父江 [コミュニケーション])

[英語表現 30 点分]

入試必携英作文から出題しましたが、全体的にはよく頑張っていたと思います。ただし、点数を取りやすい、ごく易しい問題で得点できない生徒がいたのは非常に残念です。今後は基本的な文は確実に正しく書けるように復習をしてください。

[コミュニケーション英語 70 点分]

Switch 4 Unit 4～8 が試験範囲でした。前回よりも英文の量がかなり増えたため、前回点数がよかった人でも今回は苦勞したという人がかなりいたようです。第 1 中間試験の講評で「設問をしっかり理解しよう」とコメントしましたが、今回は少し複雑な問われ方でもほとんどの生徒が正しく理解して解答できていたのは評価できます。「日本語にしなさい」の問題では当然英文に忠実に和訳しますが、「説明しなさい」であっても英文の内容に忠実に答えなくてははいけません。「なんとなく」ではなく、英文の文構造を把握し、内容を正確に伝えるような解答を心がけましょう。

平均点は「コミュニケーション英語」と「英語表現」を合わせた 100 点満点中 54.4 点でした。

【英会話】(A～D組) (担当…井上治)

平均点が前回よりも下がったことは例年通りと言えますが、クラス間差が広がったのは残念でした。暗記ノートと単語さえしっかりやってくれば、赤点を取らないですむどころか、平均点近くとることが可能であることは今回も同様でしたので、今回不振だった人は次回必ず頑張ってください。

授業はだいぶ慣れてきたと思いますが、テキスト文の聴解は簡単ではないと思います。しかしこれは食らいついて、自分には何がわからなかったのかの確認を続けるしかありません。その姿勢を堅持して頑張れば聴解力は必ずついてきますので、各自現状のワンレベル上昇を目指して授業についてきて下さい。

【演習英語】(2 単位) (A・B組) (担当…祖父江)

Grammar Collection の第 5 課「不定詞」～第 8 課「動詞の語法①」から出題しました。特に「動詞の語法①」については数多くの動詞を扱いました。まずは動詞の基本的な意味を覚えるのが大切ですが、動詞の用法(どの文型になるのか、動詞の後に何が続くか)も合わせて覚えていく習慣をつけましょう。最終的には文法項目関係なくランダムな出題に対応しなくてははいけませんので、現在のように項目別に学習している段階では 80%以上の正解を目指していきましょう。なお、今回の平均点は 68 点でした。

【理科】

【理系化学】(4 単位) (A・B組) (担当…岡田)

今回のテストは、無機物質の非金属元素、典型金属元素から、「ハロゲン」「酸素・硫黄」「窒素・リン」「炭素・ケイ素」「アルカリ金属」「2 族元素」「アルミニウム・亜鉛」から出題しました。平均点は 66 点、最高点は 96 点でした。問題量は 87 問、そのうち、化学反応式を書く問題が 25 問で、単なる知識だけでなく、なぜ反応が進行するのかなど、原理を理解しなければ覚えきれない問題でした。今までの理論を総動員しながら物質の性質を考えていくこととなります。いよいよ残すところは有機のみとなります。問題集・模擬試験などを活用しながら、大学入試レベルの問題まで力を高めていきましょう。

【理系物理】(4単位)(A・B組)(担当…若林)

大きく3つの単元から出題した試験でした。①万有引力が支配する運動、②物理基礎から続く地球上で重力を受ける運動の仕上げ、そして③静電気(と静磁気)です。②はそのまま入試に直結します。③は①の理解を転用して学習を進めていきます。試験結果を分析するに、①と②の基本問題の解答が精一杯の人が多数を占めるようです。①は入試での扱いは力学の一単元のひとつでしかありませんが、その理解が電磁気のベースになっていることを思うと、非常に示唆に富む重要単元と言えます。夏休みの間に完璧を期して復習してください。さもなくば、今後の電磁気の理解に差し障ります。

授業中に繰り返し強調してきたことですが、これからますます肉眼では見えない世界に進んでいきます。科学的な人と非科学的な人との違いのひとつは、このような見えない世界を見ることができるといえるか否かだと思います。20世紀はこのような能力を開拓した人々が切り開いた時代と言えます。21世紀を生きる君たちはそれを継承していかねばなりませんね。

【理系生物】(4単位)(A・B組)(担当…小野)

今回の試験は、発生と動物の反応から出題しました。発生の分野については、仕組みを理解しておいて欲しいところです。動物の行動については、基本的なものを多く出題しましたが、平均点は52.4点とあまり良い出来ではありませんでした。大学入試に直結している所を学習しているわけですから、ひとつひとつ確実に覚えていかなければ、大学入試に対応できる力は身に付きません。

【文系化学基礎】(2単位)(C組)(担当…村岡)

試験範囲は「物質質量」と「酸塩基反応」からでしたが、平均点は100点満点で39.6点と大苦戦でした。前回の試験範囲とは大きく異なり計算問題が主となったことが要因と思われますが、出題レベルは共通テストやセンター試験の標準レベルで、授業で扱った問題も多く含んでいたことから、大変残念な結果でした。

計算問題に取り組むにあたり、思考の過程がアヤフヤで、まるで霧の中をなんとなく進んでいるかのように処理を進めている様子が見られます。授業で確認した基礎事項を定着させたら、いかにしてそれを用いて思考するかがポイントです。すべての処理には理由がありますから、それを他者に説明できるようになるまで問題演習を繰り返そう。

夏休みには、高1で購入してもらった「アクセス化学基礎」をフル活用して総復習に励んでください。自分自身へのOKラインを高め、「すべての問題を自力で解けるようにする」という気概をもって取り組もう。夏休み明けの実力試験は化学基礎の全範囲から出題します。そこで結果が出るような熱い勉強をしてきてください。健闘を祈ります。

【文系生物基礎】(2単位)(C組)(担当…小野)

今回の試験は、細胞分裂・体内環境から出題しました。2年生で一度学習した範囲をもう一度復習しながら進めているわけですが、なかなか知識が定着できていない人が多いようです。平均点は54.1点と、あまり良い出来であったとは言えません。前期末試験での挽回を期待しています。

【地理歴史・公民】

〔世界史〕（4単位）（担当…小川正樹）

今回の試験は、「第15章 欧米における工業化と国民国家の形成」と「第16章 産業資本主義の発展と帝国主義」を試験範囲とし、主に市民革命と産業革命の内容を中心に出题しました。平均点は理系で66.7点、文系で63.3点となりました。受験者が文理合わせて10名しかいないため、平均点は個人の得点に大きく左右されますが、今回は多くの生徒が試験準備を行ってきた結果、概ね良好な成績であったと思います。市民革命から産業革命についての分野は、教科書で記述しているよう分掌での問題になることはまれで、前後の時代や他の地域との融合問題が多く、「くらべる力」と「つなぐ力」が求められるところです。基本的事項は、授業前確認テストなどを活用して定着させ、試験前練習問題で基礎知識の活用を確認し、最終的には教科書とノートで全体の流れを再確認する、という学習のローテーションを確立し、知識と理論の習得に努めてください。

〔日本史〕（4単位）（担当…齋藤）

今回の試験は、明治時代の大部分が試験範囲ということで、内容が多岐にわたるとともにボリュームのあるものとなりました。出題にあたっては、事前に配布した練習問題や愛知教育大学・早稲田大学・駒澤大学などの実際の入試問題にアレンジを加えて、基礎的事項の定着を確認しつつ、二次試験・私大入試も意識したものとしました。問題数も多く、ハードな試験であったと思います。

試験返却時の解答解説の授業の中でもお話ししましたが、私（齋藤）としてみなさんに大事なことを的確に伝えきれていなかったのではないかという反省を持っています。「松方デフレ」の内容やその影響についての誤解が目立ったり、教科書に掲載もされていかつ授業でも大きな声で読んだ史料の認識も不足していたりすることなどから、もっと工夫をしてみなさんに深い理解を促す授業を再構築する必要性を感じている次第です。

その一方で、みなさんとして徹底した基礎固めのためには何が必要なのかについても、あらためて模索してほしいと思います。例えば今回の大問4（もともと早稲田大学の問題）は、答えるべきことから自体は全て基礎用語ばかりだけれど、揺さぶりをかけられたことで総崩れになってしまった者も多かったですね。単純な一問一答的な知識ではなく、基礎的事項も他の事項との関連を大切にしながら、深い理解を心がけることが求められているわけです。また、何とか答えをひねくりだそうとする粘り強さ、あきらめない精神性も身につけてほしいと思います。

試験後の授業は、あらためて引き締まってきたという印象を持っています。さすが函館ラ・サール生。そして、その姿勢を堅持し発展させることで函館ラ・サール生は必ず伸びます。私自身も一期一会の授業に全力で臨みますので、ともに頑張りましょう。

【地理】（4単位）（担当…両角）

平均点は58点でした。第一中間が70点でしたので、問題を作成した本人は難度を上げたつもりはありませんのに、低下してしまいました。採点をしながら感じたことは、以前とほぼ同じレベルを保った人と急落した人に大別されることです。急落した人は、その原因はどんなことだろうかを考えてもらえればと思います。ただし、去年から地理に取り組んでいる皆さんです。それほど深刻には考えてはいません。点数のよかった人もよくなかった人も、次はどうでしょうか、そのためには今や夏休みにどんな勉強をしようかをこの機会に考えてもらえればと思います。3年生の後半になると、どうやら地理も地名などの固有名詞を知識として覚える必要度は高まってきたかもしれませんね。次は、実力テストです。頑張りましょう。

【倫理】（2単位）（担当…韓）

今回の試験は、「第2編 人間としての自覚として、西洋思想—イスラムから中国の思想」までを試験範囲とし、演習ノートと入試問題をベースに作成しました。平均点は理系で37点、文系で30点であり（ともに50点満点）大半は記号問題にした結果でした。倫理の科目の多くは思想と生き方になります。入試科目として利用するか否かに関わらず、関心を持って取り組んで欲しいと思っています。

【政治経済】（2単位）（担当…坂本）

入試に向けた実戦的な問題演習、この点は押さえておくといよというポイント学習、法をテーマにした、その場で思考を求める読解や論述形式を出題しました。その場で読解を求める問題は、最近の共通テストをはじめ、求められる学力になっています。文系の生徒はこの点に関心をもっているものが理系よりも多く見えたことがうれしく思いました。洞察や内容が深かったです。理系の生徒は、演習をはじめ入試問題に直接つながる問題について、よく学習がなされていました。入試では語句とその内容の理解を丹念にしていくことが、やはり高得点につながります。一つひとつ理解をしながら進めていきましょう。